

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	ごみ減量推進事業	会計	一般会計	事業No.	341	施策順No.	56-006
		事業種別	政策・その他	予算科目	0予算事業		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	環境課		
施策	56廃棄物の減量と適正処理			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市民、事業者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	ごみ減量の必要性を認識して、焼却・埋立処分するごみの減量(リデュース、リユース、リサイクル)を実践してもらう。							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
		飯田市の人口(人) (H22.10.1推計人口)	107259	106630	105691	105036	107000		
		ごみ収集量(t/年)	24259	23737	22515	25200	22041	25100	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	消費者によるマイバッグの持参、販売店によるレジ袋の削減が浸透してきていることがごみ収集量の削減に寄与した。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>・循環型社会形成に向けて、「ごみの減量」は大きな課題となっている。消費者である市民団体と、販売者である事業者と行政の三者が同じ場で話し合い、ごみ減量という共通の目的を持ち、お互いが協力して可能なごみ減量の方法を計画し、取り組む。実践した結果を検証し、取組を広報して啓発に努め、ごみ減量に取り組む団体、市民、事業者の裾野を広げて行き、結果的に排出量の削減に結びつける。</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 買物袋持参運動の活動と支援 (1) 南信州レジ袋削減推進協議会、市民団体等との連携によるマイバッグ運動、街頭啓発活動 (2) 販売店との連携	1 (1) 街頭啓発回数 (2) レジ袋削減への協力店舗数	1 (1) 11回 (2) 80店舗
23年度実施計画	1 買物袋持参運動の活動と支援 (1) 南信州レジ袋削減推進協議会、市民団体等との連携によるマイバッグ運動、街頭啓発活動 (2) 販売店との連携	1 (1) 街頭啓発回数 (2) レジ袋削減への協力店舗数	1 (1) 11回 (2) 80店舗

3 事業コスト

事業費	(千円)				特定財源内訳、補足事項
	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額		
特定財源	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他				
一般財源	計(A)	0	0	0	
	正規職員所要時間		30		
	臨時職員等所要時間				
	人件費計(B)		107		
	トータルコスト A+B		107		

4 事業に対する市民や議会の意見

<p>・全国的にマイバッグ運動が広がっており、消費者団体からレジ袋削減の声が上がっている。</p>

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	ごみを少なくする	施策の成果指標又はムトス指標	ごみの収集量
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	ごみの減量は地球温暖化の防止策の1つであり、減量による処理経費の削減ができ必要。		
	後期に向けた課題			
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	環境部会連絡会及び市民団体、販売店との連携の向上。		
	後期に向けた課題	さらにレジ袋の削減に取り組み、ごみの減量を図る。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	環境部会連絡会及び市民団体、販売店との連携により、0予算事業としてコストをかけずに実施した。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	レジ袋の削減への取組みにおける、店舗等による袋の廃止及び有料化については受益者への相応の負担を伴うものである。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①環境部会連絡会、市民団体及び販売店 ②3R運動推進事業、マイバッグ推進事業及びレジ袋削減等での連携		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	環境部会連絡会及び市民団体、販売店との連携により、レジ袋の削減によるごみの減量が図れた。		
	後期に向けた課題	さらにレジ袋の削減に取り組み、ごみの減量を図る。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------